

2015年10月29日

大阪産業大学附属高等学校

2014年度 学校関係者評価

大阪産業大学附属高等学校
学校関係者評価委員会

10月26日に学校関係者評価委員会（8名中6名の委員が出席）を開き、会議冒頭にホームページに掲載している体育祭・文化祭の動画を視聴し、その後、学校が公表する学校評価に基づいて大阪産業大学附属高等学校の教育について議論しました。その概要を報告します。

1. 2014年度 学校評価について

学校評価に記載していることの中で、国際科は特進コースと進学コースを一本化しグローバルコースに改編すること、授業日数を見直したこと、学力保障期間の取り組み、生徒会の取り組み、国際科の取り組みについて、さらに詳しい説明が学校に求められました。

本校の大きな課題となっている「主体的に学習に取り組む」ことに関して、大阪産業大学のオープンキャンパスに参加し、目標が定まり勉強に頑張るようになった経験が語られる一方で、大学進学後は高校の時のようにクラス担任が細かく指導するということがないだけに、高校時代に自らをきっちりとコントロールする自立心を身につけることの重要性が語り合われました。

2. 学校教育への提言

A. 保護者から

学校からの情報発信について意見が寄せられました。

体育祭・文化祭の動画を始め、ホームページで元気で明るい学校の雰囲気为学校外にも良く伝わるようになったが、ホームページでは伝えきれないことも少なくなく、現在、平日に実施している文化祭を日曜日の実施にし、多くの人に実際に来校してもらって、学校の姿を知ってもらうことはできないものかとの意見も出されました。

また、学校の配布物が保護者に渡らないことも少なくなく、メール配信を使って配布物があることを知らせるようにしてほしいとの要望も出されました。

B. 近隣地域住民から

遅刻が随分少なくなっているとの感想が出され、「地域の評判は良くなっている」との評価を受けました。クラブ員が学校周辺の清掃活動をしていることも評価されましたが、一般生徒も取り組むことを考えてはとの提案も受けました。

C. 大阪産業大学の教員から

本校からの内部進学者の大学での状況が報告され、大学で学ぶ学力をしっかりと身につけるとともに、簡単に諦めることをしない人間力を身につけるようにしてほしいとの意見が出されました。